横浜市立相武山小学校

学校だより

１０月号

令和４年９月３０日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～

「確かな目を育てる」

学校長　後藤　直樹

９月は曇った日が多く、特に前半は蒸し暑い日が続きましたが、台風を境に秋の空気に入れ替わりました。天気や気温の変化が大きく不安定な環境の中でしたが、子どもたちは運動会に向けた取組を頑張っています。

さて、一人ひとりがタブレットを手に学習するというスタイルは、教育予算という事情もあるので少なくとも１０年くらいの時間をかけて、少しずつ整備されていくのであろうと考えていました。しかしこのコロナ禍をきっかけに突如、Wi-Fi 環境と共に整備されました。こうした意味で今、学校現場は激変の時期にあるとも言えます。その中で学校は新たに取り入れるＩＣＴを活用した学習と、実際の体験を伴う学習のそれぞれの良さと必要性をしっかりと見極めて授業を構成していかなければなりません。

ところで、一昨年の令和２年の３月から、約半年に及んだ突然の臨時休業は、まだ記憶に新しいところです。当初、学校を９月始まりにするという話まで検討されていました。感染症専門家の方々が連日ニュース番組に出演し、様々な情報が飛び交っていました。「ゴールデンウィークが山場となる」「この夏のピークを乗り切れば・・・」など、私は自分にとって都合の良い情報を拾い集めていた気がします。しかしその中で、iPS 細胞研究の第一人者である山中教授は、私は専門家ではないので・・・と前置きした上で、「こうしたウィルスの流行は何回かの波を繰り返し、少なくとも２～３年以上かけて少しずつ終息していくものです。」と語っていました。私は「えっ！そんなに？」と驚いたので、やけに鮮明に記憶しています。現実は正にその通りに流れ、今に至っています。膨大な情報の中から、真実を見極めることは簡単なことではありません。きっと山中教授は、一つの研究に没頭しながらも、それらを支えている幅広い見識をもち、常に類似性や相違点を比較しながら、真実を見極めようとしているに違いありません。私たちも日頃より、偏った一つの情報に執着することなく、より広い視野から情報を分析し、真実を導き出そうとする姿勢を忘れてはならないと改めて思いました。

目の前のパソコンやタブレットから膨大な情報を瞬時に手にすることが出来るようになった今だからこそ、実体験に基づく経験を少しでも多く重ねさせ、子どもたちの視野を広げていくことを大切にしていきたいと考えています。